

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育者論 On early childhood educator and carer		1年	後期	火曜日・4時限、金曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択 ( 保育士養成課程必修科目 )		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
教師論その他教職科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
幼稚園教諭免許状取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
本講義では、保育者の仕事と役割、保育者になるための学び、保育士の制度的な位置づけ、保育者の職務と生活等々を題材にして、あるべき保育者像を考究する。				
授業の到達目標				
○保育者の役割と倫理について理解を深めることができるようにする。 ○保育士の制度的な位置づけを把握することができるようにする。 ○保育士の専門性並びに専門職的成長について理解を深めることができるようにする。				
授業の方法				
基本的には、板書を中心とした講義形式で行う。単元終了時に小テストを実施。宿題・課題を課す。学期末にレポート提出。「調べる・考える学習」を重視した授業の展開を図る。				
学習の成果				
○保育者の仕事と職務を正しく認識することができる。○保育と保育指導技術を理解し、子育て支援の基礎を習得することができる。○これからの保育者に期待される幅広い知識・教養・技術・技能、コミュニケーション能力、実践研究能力、組織的活動能力の基礎を習得し、活用することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、授業の概要、進め方等の説明 レポートのテーマ及び提出期限等の説明			
第2回目	保育者の仕事と役割 幼稚園教諭の仕事と役割 保育所における保育士の仕事と役割			
第3回目	保育者に求められる資質 保育者に求められる幅広い資質 現代の保育者に期待される役割 学生時代に学ぶこと			
第4回目	保育者として働く 職場での学び 学び続ける保育者 <小テスト>			
第5回目	子どもの育ちの危機と子育て支援 「子育て支援」と保育者の役割 「子育て支援」を考える視点			
第6回目	保育と保育指導 保育技術 保育指導の意義と基本的視点			

第7回目	保育指導の基本構造と技術 保育指導の基本姿勢と対象 保育指導の展開過程と基本技術 <小テスト>		
第8回目	保育指導の実践場面と手段 保育指導における援助体制		
第9回目	現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題 増加し多様化する「保育者」の課題 国家政策の「子育て支援」		
第10回目	就学前サービスの再構成 異文化理解教育(保育)の必要性 これからの保育者に期待されるもの <小テスト>		
第11回目	保育者の職務と生活 職務の法的根拠 服務義務		
第12回目	保育者の倫理 保育者の権利と研修 生涯の仕事としての保育者 <小テスト>		
第13回目	日本の保育者の歩み 日本近代保育の始まりと保育者 保育の発展と保育者一自然・自由・自己活動		
第14回目	戦後保育の歩みと保育者の役割 保育者の実態 保育者の専門性とライフコース		
第15回目	まとめと試験		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の事柄で評価する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明する。)
レポート		20%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明する)
調査報告書			
小テスト		20%	単元終了時に小テストを4回実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に理解されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
中間・学期末試験		50%	論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超え、自己の考え方も示されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
使用テキスト：「保育原理」待井和江編 ミネルバ書房 参考図書：「保育者論」秋田喜代美編集代表 (株)みらい			
履修上の心得・ルール			
意欲的、積極的に学習課題に取り組むこと。遅刻厳禁。飲み物等持ち込み禁止。			